

アサーティブ行動阻害の要因について^{1,2)}

——対人恐怖心性からの検討

三田村 仰 横田 正夫
関西学院大学大学院文学研究科 日本大学文理学部

問題と目的

アサーティブ行動は対人的行動であり、この阻害要因には対人不安と拒否回避欲求が考えられる。対人不安をもつ個人は、一般的に対人場面において回避的行動を示しやすい。また、これまでに対人不安とアサーティブ行動との間には負の相関が報告されている (Hollandsworth, 1976)。こうした関連は対人不安の高いことがアサーティブ行動を抑制する可能性を示唆している。なお本研究では、幅広い対人不安の概念の中でも特に、健常青年も一般的に有するとされる対人恐怖心性をとりあげる (堀井・小川, 1996, 1997)。

アサーティブ行動阻害要因にはまた拒否回避欲求が考えられる。拒否回避欲求とは、他者からの拒否を避けたいとする「引っ込み思案」を方向付ける自己呈示欲求であり、対する「自己顕示性」を方向付けるのが他者からの賞賛を受けたいとする賞賛獲得欲求である (菅原, 1986)。他者からの拒否を回避しようとするのは、相手へのアサーティブな行動を阻害すると考えられる。つまり、相手から嫌われたくない個人にとっては、アサーティブな行動をとらず他者の言いなりになることの方が容易であろう。拒否回避欲求が異性への告白行動を抑制するという報告もある (菅原, 2000)。拒否回避欲求はアサーティブ行動という積極的行動を抑え、受身的で無難な行動をとる方向に個人を仕向けると考えられる。一方で賞賛獲得欲求では、賞賛を求めたいとする積極的傾向をもつことが考えられる。前述した告白行動に関する報告でも、賞賛獲得欲求は告白行動を促進することを示唆している。

また、拒否回避欲求は対人不安を高める間接的なアサーティブ行動阻害要因であり、賞賛獲得欲求は対人不安を抑制する間接的なアサーティブ行動促進要因と考えられる。佐々木・菅原・丹野 (2001) は、拒否回避欲求が対人不安を高め、賞賛獲得欲求では対人不安を抑制することを示唆している。

そこで、本研究では、アサーティブ行動阻害要因として対人恐怖心性と拒否回避欲求、アサーティブ行動促進要因として賞賛獲得欲求を設定した。これらをまとめ次のようなアサーティブ行動阻害のモデルを仮定した。すなわち、アサーティブ行動は、(a) 対人恐怖心性によって阻害され、(b) 拒否回避欲求と賞賛獲得欲求によってそれぞれ直接的に阻害、促進される、また、(c) 拒否回避欲求と賞賛獲得欲求が対人恐怖心性をそれぞれ促進、抑制することによって間接的に阻害、促進される、と仮定し検討をおこなった。

方 法

調査対象者 大学生 366 名 (男子 166 名, 女子 200 名; 平均年齢 19.6 歳 (SD51.9))。

質問紙 日本語版 Rathus Assertiveness Schedule (清水他, 2003; 以下 JRAS) と対人恐怖心性尺度 (堀井・小川, 1996, 1997)、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度 (小島・太田・菅原, 2003) を使用した。JRAS は清水他 (2003) が作成した Rathus Assertiveness Schedule (Rathus, 1973) の日本語版である。清水他 (2003) は、Rathus (1973) によるオリジナル 30 項目中 19 項目について日本語版としての妥当性を確認し、この 19 項目の使用を推奨している。そこで本研究では妥当性の確認された 19 項目について JRAS 尺度として使用した。「全くあてはまらない」から「完全にあてはまる」の 6 件法によって評定させた。対人恐怖心性尺度は 30 項目からなる対人恐怖心性を測定する尺度であり高い信頼性と妥当性が確認されている (堀井・小川, 1996, 1997)。対人恐怖心性尺度については「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」の 7 件法によって評定させた。賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度は、賞賛を求めたいとする賞賛獲得欲求と他者からの拒否を避けたいとする拒否回避欲求を測定する二つの尺度から成る。拒否回避欲求の強い個人は

- 1) 本論文は第一著者の平成 15 年度日本大学文理学部卒業論文および日本社会心理学会第 45 回大会発表論文の一部を加筆修正したものである。論文作成にあたりご協力頂いた皆様、また助言を頂いた奥村泰之氏 (日本大学大学院)、JAPSAS (対人不安や評価懸念をテーマとした研究会) 皆様には厚く御礼申し上げます。
- 2) パス解析に使用した分散-共分散行列の要望があれば第一著者まで連絡されたい。

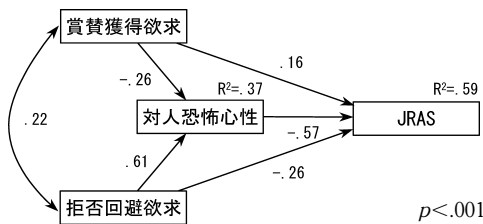


Figure 1 アサーティブ行動阻害のパス図

ど、他者からの否定的評価に対し、特にハジ感情に関連した反応を示し、一方、賞賛獲得欲求の強い個人ほど特に怒りに関連した反応を示すことなど、それぞれの情緒的反応の違いから構成概念妥当性が示されている。また、尺度の信頼性も確認されている（小島他，2003）。賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度については、それぞれ「あてはまらない」から「あてはまる」の5件法によって評定させた。

結 果

JRAS と対人恐怖心性、賞賛獲得欲求、拒否回避欲求について相関係数を算出した結果、JRAS との相関の強さは、対人恐怖心性 ($r = -.74$)、拒否回避欲求 ($r = -.54$)、賞賛獲得欲求 ($r = .17$)、の順であった（いずれも $p < .001$ ）。また、JRAS と対人恐怖心性、拒否回避欲求について、JRAS に対し一方の影響を取り除いての偏相関を求めた結果、JRAS との偏相関は、対人恐怖心性 ($r = -.62$)、拒否回避欲求 ($r = -.24$) の順で強かった（いずれも $p < .001$ ）。

次にアサーティブ行動阻害モデルを検討するためパス解析をおこなった (Figure 1)。この結果、対人恐怖心性から JRAS に対し、 $-.57$ のパス係数が示された ($p < .001$)。また、対人恐怖心性は、拒否回避欲求の正の影響 ($\beta = .61$)、賞賛獲得欲求の負の影響 ($\beta = -.26$) を受けていた ($p < .001$)。更に賞賛獲得欲求と拒否回避欲求による JRAS への影響をみると、対人恐怖心性尺度を経由しない直接効果が賞賛獲得欲求と拒否回避欲求において各々 $\beta = .16$ 、 $-.26$ の値を示した ($p < .001$)。また、このモデルで得られたパス係数は、JRAS への影響として、対人恐怖心性、拒否回避欲求の直接効果、賞賛獲得欲求の直接効果の順で大きく、対人恐怖心性への影響としては、拒否回避欲求が賞賛獲得欲求からよりも大きかった。

考 察

アサーティブ行動は、対人恐怖心性によって阻害され、それよりも弱い拒否回避欲求によって直接的に阻害されることが示唆された。この結果はこれまでの対人不安の研究でもいわれているように、対人恐怖心性がアサーティブ行動といったコミュニケーション・スキルを阻害することを示唆している。つまり、対人恐怖心性を強くもつ個人が、対人場面での自他へのとらわれを持つのであれば、そうした個人にとって、自らの感情を素直に表現することや、他

者への依頼、理不尽な要求の拒否などのアサーティブ行動を実行することは困難であろう。また、アサーティブ行動は、わずかではあるが賞賛獲得欲求によって直接的に促進されることが示唆された。更に、アサーティブ行動は、拒否回避欲求が対人恐怖心性を高めることによって阻害され、賞賛獲得欲求が対人恐怖心性を抑制することによって間接的に促進されることが示唆された。これらの結果から、アサーティブ行動阻害のメカニズムとして拒否回避欲求によって対人恐怖心性が高められる段階と対人恐怖心性がアサーティブ行動を阻害する段階との2段階による阻害が考えられる。本研究のアサーティブ行動阻害モデルにおいて特に注目すべき点は、アサーティブ行動が、拒否回避欲求にはじまり対人恐怖心性を経て阻害される点である。このことはアサーション・トレーニング（以下 AT）を考える上でも特に重要である。つまり、AT における、拒否回避欲求への介入がより深いレベルでの効果を生むことが示唆される。対人恐怖心性については、社会不安のための認知行動療法が期待できる。そして今後、拒否回避欲求に対し如何に働きかけるかが、より効果的な AT の鍵になりそうだ。アサーティブ行動阻害要因については今後、アサーティブ行動と対人恐怖心性における文化的要因も考慮に入れた検討が期待される。

引用文献

- Hollandsworth, J. G. (1976). Further investigation of the relationship between expressed social fear and assertiveness. *Behaviour Research and Therapy*, **14**, 85-87.
- 堀井俊章・小川捷之 (1996). 対人恐怖心性尺度の作成 上智大学心理学年報, **20**, 55-65.
- 堀井俊章・小川捷之 (1997). 対人恐怖心性尺度の作成 (続報) 上智大学心理学年報, **21**, 43-51.
- 小島弥生・太田恵子・菅原健介 (2003). 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み 性格心理学研究, **11**, 86-98.
- Rathus, S. A. (1973). A 30-item schedule for assessing assertive behavior. *Behavior Therapy*, **4**, 398-406.
- 佐々木淳・菅原健介・丹野義彦 (2001). 対人不安における自己呈示欲求について——賞賛獲得欲求と拒否回避欲求との比較から—— 性格心理学研究, **9**, 142-143.
- 清水隆司・森田汐生・竹沢晶子・赤築綾子・久保田進也・三島徳雄・永田頌史 (2003). 日本語版 Rathus Assertiveness Schedule (RAS) の作成と信頼性・妥当性の検討 産業医科大学雑誌, **25**, 35-42.
- 菅原健介 (1986). 賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求：公的自意識の強い人に見られる2つの欲求について 心理学研究, **57**, 134-140.
- 菅原健介 (2000). 恋愛における告白行動の抑制と促進に関わる要因——異性不安の心理的メカニズムに関する一考察—— 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 230-231.

— 2005. 11. 17 受稿, 2006. 3. 23 受理—

Assertive Behavior and Taijin-kyofu, Social Phobic Tendency

Takashi MITAMURA¹ and Masao YOKOTA²

¹Department of Psychology, Graduate School of Humanities, Kwansai Gakuin University

²Department of Psychology, College of Humanities and Sciences, Nihon University

THE JAPANESE JOURNAL OF PERSONALITY 2006, VOL. 15 No. 1, 55-57

This study examined the relationship of assertive behavior and taijin-kyofu, which is a social phobic tendency. Three hundred sixty six (366) undergraduates answered a questionnaire that included Rathus assertiveness schedule and scales of taijin-kyofu and praise seeking and rejection avoidance needs. Results of path analysis were consistent with the model that taijin-kyofu was strongly associated with less frequent assertive behavior, and that rejection avoidance was weakly associated with it. On the other hand, praise seeking was associated with more assertive behavior. Clinical implications of the results were discussed.